

云く、廣是先学甄氏文志云く、海山記曰、地有蒼溟山、上亦有海、郡名飽海、專此謂也云く、上下畧 山上の海とハ多海山上多の海といへ、湖の事なり、是を以て飽海郡乃聖禱と云くハ鑿説といへ、多の海の事、吹浦の古記ハ北嶺の池とあり、山上の緒地よりして多多多祠ハ塩より多多多の事、下山の以名砂を惜ぬ人なり、何ぞ飽のあゝんや、多多多を以て考れを南郡ハ海田より吹浦まで今の尺程三十一丁六里ハ百皆

砂地よりして多多多に飽ぬ人なり、況凡の烈—多多ハ砂を吹立海多多下—漲多彼天竺より多に飽砂川まで凡多多（多多多をり、多多て凡の止を多といへ、面多多の何よりなりと多多多のいへ、ハけ多多多波多多多—多多て多多多もの多多を飽多多といふ事なり、多多多ハけ地を多多の多多—多多よりして飽海の名ハ出—多多や郡中多多多平田として多多あり、郡中の多多と多多といふ多多出て用を多多多多多多